

さびしい研究と

七十年・不屈のたたかい

アナキズム・人と思

・ルズ・

スケアスリオクス

マルクス・グラハム

五一五年はオランダのロッテルダムに外追放となった。いつ頃彼がアメリカに渡ったか、そのことについても残していないが、一九一〇年に

もうリッチモンドにてアナキストとして活動していたことは、

彼は多くの個人やわれわれの

ストとして活動していくことを

しかである。

スケアスリオクスと私が知つた

は、九三八年、「人間」の出版

がシスコからロサンゼルスに移

った時であった。この雑誌での彼

の共同研究は「マン・グループ」

と同様に有名であったが、共同研

究におけるその厳格な態度は知る

者が少い。「人間」は九四〇

年、政治権力の脅迫が多数の読者

やその関係者の上に加えられた時

が繰り返された。

スケアスリオクスは正式の教育

は受けたが多年の放浪の旅を

失せた。(彼の終世の伴侶だつたサビチ・スケアスリオクスが三

月三百人に死んでからまる四年後であった。)

同僚ケアスリオクスは一八七二

年七月廿日、ちょうど九十年前、

ベルギーのヘインのラスマエル

に生れ、すぐ母を失つた。父は彼

を一才のときからある陶器造

所へよそい出した。

一七才のとき、彼は少女とぼく

かみの恋におちた。それを喜ばなかつた彼の父は、

漁港からえつてきの彼を、戸外へ放し出した。それ以来彼は家に

かまらず、その放浪生活は、今まで北フランスのリエーヌに彼が自ら名づけたあたらしい浮浪人生活の所へよそい出した。

彼は少女とぼくかみの恋におちた。

白内障見ゆる手だけは更になしと冷たく

医師は言い放ちたり

白内障光りのみ見ゆ手のひらをひらひら

させて見きわめんとす

ともすればくず折れかかる我がこころ児

のをさなきがある立たしむ

寄り添いて二十五年を歩み来し妻をおもへば」としかりけり

妻よ妻女よお身に疲れのみゆる日は我の心も暗く重たし

知り、彼どもが動くことのでき、為された不斷の精神的また物質的な貢献によつて、豊富で充実なものとされてゐるのである。(加藤茂訳)

J・K・ザヴィオドニー著

「カティンの森の夜と霧」

大久保忍

ソ連に虐殺されたボーランドの悲劇。

ド軍捕虜約一万五千名の足跡

ソ連に虐殺されたボーランドの悲劇。

ド軍捕虜約一万五千名の足跡